

## 日本醸造協会誌投稿規程

(平成7年1月1日実施)

### 【総 則】

1. 日本醸造協会誌は、醸造に関する科学、技術の振興及び醸造業の発展と経営の合理化に資する解説記事を掲載する。記事の内容は、業界を啓蒙するものであると共に公正中立な立場で論ぜられたものでなければならない。
2. 掲載する記事は、本会からの執筆依頼によるものと会員からの自由投稿によるものとに分けられる。自由投稿は、日本醸造協会（以下「本会」という）会員又は日本醸造学会通常会員に限る。
3. 提出された原稿は、本会誌企画委員会により掲載の可否が決定される。その際、原稿の字句について加除修正を加えることがある。
4. 掲載文の著作権は、本会に属する。また、その原稿は、著者に返却しない。

### 【内容区分】

5. 解説記事は、論説・解説・資料・その他に区分する。
6. 論説・解説は、1編について図・表を含めて12,000字程度とし、資料・その他は、適宜とする。

### 【原 稿】

7. 原稿は、日本醸造学会誌投稿原稿執筆要領（2, 3, 12, 13, 14）を参考に作成する。用語は、図・表の説明を含めて邦文とするが、標題、著者名、著者の所属には英文を付する。
8. 原稿は、正副2部に、原稿送り状を添えて下記あて送付する。  
〒104-0023 東京都北区滝野川 2-6-30  
日本醸造協会編集部

### 【校 正】

9. 校正是、原則として初校に限り著者が行い、指定された期日までに返送する。
10. 校正にあたっては、単なる誤植などの訂正に止める。文章の改訂、内容の加除変更は認めない。

### 【費用負担】

11. 掲載論文の別刷りは、著者に対し別に定める料金で頒布する。

### 附 則

この規程は平成15年1月1日改正

この規程は平成30年1月1日改正

## 日本醸造学会誌投稿原稿執筆要領

(令和2年1月1日実施)

1. 日本醸造学会誌に投稿しようとする論文の原稿は、この執筆要領に従って作成する。
2. 原稿の作成は、マイクロソフトワードなどのワードプロセッサソフトウェアを利用する。A4版、縦置、文字12ポイント、行間1.5行、余白2cm以上で作成し、ページ番号及び行番号をつける。
3. 以下を1つのPDFファイルにまとめて電子メールの添付ファイルとして投稿する。  
標題(日本語)、著者名・所属(日本語)、標題(英語)、著者名・所属機関名(英語)、抄録(英語)、キーワード(日本語及び英語)、責任著者のメールアドレス、本文(緒言、実験方法、結果、考察、要約、謝辞、参考文献)、表(1ページに1つの表)、図(1ページに1つの図、説明を含む)  
ノートは、研究報文に準じて作成する。
4. 電子メール本文に、原稿送り状(氏名・所属、電話番号、メールアドレス、原稿枚数、別刷希望部数、備考)の情報を記載する。
5. 標題は、論文の内容を具体的かつ的確に表現し、しかも不要の文字(例…に関する研究)を省いた出来るだけ簡潔なものとする。なお、標題中にキーワードが含まれるよう配慮する。  
シリーズ番号を付ける場合は、副題の形式とし、脚注に記載する。
6. 著者名は、姓・名を略さずに記載する。責任著者の右肩には\*を付ける。脚注に、責任著者のメールアドレスが記載される。
7. 著者の所属機関は、当該研究の行われた機関とし、その正式名称を記載する。また、所属機関の所在地を、郵便番号、番地等を省略せずに付記する。  
研究を行った後に所属機関が変わった場合には、脚注に現在の所属を記載する。
8. 標題、著者名、著者の所属機関名等には、英文を付記する。著者名は、ローマ字で、姓は文字のすべてと名の頭文字を大文字で記載する。
9. 抄録は、本文を読まなくても内容の要点が理解できるものとし、英文で、改行をせずに、研究報文の場合は200語、ノートの場合は100語以内で作成する。なお、参考までに、和訳を添付する。
10. キーワードは、論文内容を代表する単語とし、5個以内(日本語及び英語を併記する)を主として標題及び抄録から抽出する。
11. 研究報文の本文は、緒言、実験方法、実験結果、考察、要約の順に作成する。

学術論文であるから、論理的かつ明確な構想に基づいて記述されていること、その研究を行った理由、既往の研究との関連性も明示されていること、使用した方法・実験手法、または実験技術は専門研究者が読んで追試し得るように記述されていることなどが要求される。

また、読者にとって読みやすいよう、記述の重複を避け、①・②を利用して箇条書きにするなど簡潔明瞭な文章の作成にも留意する。

### 12. 図・表

(1) 図はパワーポイントなどの作画ソフトウェアを用いて作成する。表はワードプロセッサソフトウェア等の機能を用いて作成する。写真も図とする。

(2) 本文中では、図はFig.1、表はTable2などと記し、原稿では使用箇所の近傍に挿入位置を指定する。

(3) 図・表は一つごとに別紙とし、図はそのまま使用できるように、鮮明なものとする。

(4) 図のキャプション(見出し及び説明)・表は、本文を読まなくとも理解できるように、英文で作成する。図・表のキャプションは当該図表と同一ページに付ける。

### 13. 参考文献

(1) 本文中では引用順に著者名又は事項を示す用語の肩に1, 2)のように番号を付し、それらの出典をまとめて参考文献、または文献の項に番号順に列記する。

本文中での著者名は、原則として姓のみとし、2名のときは両者、3名以上のときは第1著者以外を「他」または「ら」と略記する。

(2) 文献は、番号、著者名(全員について姓名とも)、雑誌名(略記で可)、本誌の場合は「醸協」(書名)、巻、ページ、(成書の場合は、発行所、発行都市名)、発行年の順に記す。

雑誌名は邦文の場合は科学技術文献速報、欧文の場合はChemical Abstractsで使われている略語を用いる。

なお、著者名と雑誌名の間にはコロンを置くほかはカンマで区切り、ページは、最初と最後を短いハイフンでつないで記載し、発行年は丸括弧で括る。また、欧文雑誌名はイタリックに、巻はボールドに字体指定する。

### 14. 用語・用字・記号等

(1) 常用漢字の使用が基本であるが、醸造特殊用語の味噌、醤油、焼酎、麴、醗、醸、酒等、及び澱粉、蛋白質、醱酵等は使用できる。

(2) 生物の学名は、イタリックに字体指定する。

(3) 数字は、アラビア数字を用いる。

(4) 字体の指定は、使用するソフトウェアの機能を用いて行う。

(記載例)

1) 鈴木康司, 飯島和丸, 坂本幹太, 佐見学, 山下博: 醸協, 101 (2), 94-103 (2006)

2) Y. Saito, K. Wanezaki, A. Kawato and S. Imayasu: Biosci. Biotech. Biochem., 58, 812-816 (1994)

3) 注解編集委員会編, 第四回改正国税庁所定分析法注解 (財団法人日本醸造協会, 東京), 211-228 (1996)

4) J.Priewe: Wine, from Grape to Glass (Abbeville Press Publishers, New York), 62-63 (1999)

(5) 計量単位は国際単位系 (SI) を基本とするが, リットル等慣用されている単位系も使用してよい。

単位記号は, 常用のものを用いる (別表参照)。

(6) 物質名, 生物の学名は, 本文中初出のときには略さずに記載し, 略号を使用する場合はそれに続いて括弧書きで示す。

常用的に使われる物質名その他の用語のうち, 極めて使用頻度が高く, かつ, 国際的に共通の略号で使い方が統一されているものは, 説明なしにその略号を使用できる (別表参照)。

(7) ギリシャ文字など間違いやすい文字や数字には, 誤植を防ぐため余白に指示をつける。

【別表 記号・略号の例】

単位記号

長さ	nm, μm, mm, cm, m	時間	s, min, h, d, wk, mo, yr
面積	mm <sup>2</sup> , cm <sup>2</sup> , m <sup>2</sup>	物質質量	μmol, mmol, mol
体積	μl, ml, l, kl (μL, mL, L, kLでもよい。), cm <sup>3</sup>	濃度	μM, mM, M
重さ	μg, mg, g, kg, ton	〃	N, %, g/100 ml (g/100 mLでもよい。), ppm, ppb, pH
		温度・熱量	°C, J, kJ, cal, kcal

物質名略号

アミノ酸残基 (一文字略号は蛋白質の一次構造に限って使用できる) .....

Glycine	Gly(G)	Tryptophan	Trp(W)
Alanine	Ala(A)	Proline	Pro(P)
Valine	Val(V)	Hydroxyproline	Hyp
Leucine	Leu(L)	Aspartic acid	Asp(D)
Isoleucine	Ile(I)	Glutamic acid	Glu(E)
Norvaline	Nva	Pyroglutamic acid	Glp
Norleucine	Nle	Asparagine	Asn(N)
Serine	Ser(S)	Glutamine	Gln(Q)
Threonine	Thr(T)	Lysine	Lys(K)
Cysteine	Cys(C)	Arginine	Arg(R)
Methionine	Met(M)	Histidine	His(H)
Phenylalanine	Phe(F)	Ornithine	Orn
Tyrosine	Tyr(Y)	Citrulline	Cit

糖残基 .....

Arabinose	Ara	Ribose	Rib
Xylose	Xyl	Maltose	Mal
Fructose	Fru	Sucrose	Suc
Galactose	Gal	Glucosamine	GlcN
Glucose	Glc	N-Acetylglucosamine	GlcNAc
Mannose	Man		

核酸関連物質 .....

Deoxyribonucleic acid	DNA	Adenosine 5'-triphosphate	
Complementary DNA	cDNA(cRNA)		ATP(AMP,ADP)
Mitochondrial DNA	mtDNA(mtRNA)	Adenosine triphosphatase	

Nuclear DNA	nDNA (nRNA)		ATPase
Ribonucleic acid	RNA	Cyclic AMP	cAMP
Messenger RNA	mRNA	Flavin-adenine denucleotide	
Ribosomal RNA	rRNA		FAD(FADH <sub>2</sub> )
Transfer RNA	tRNA	Nicotineamide-adenine dinucleotid	NAD(NAD <sup>+</sup> , NADH)
<b>その他</b> .....			
Acetyl coenzyme A	CoASAc	Sodium dodecyl sulfate	SDS
<i>O</i> -(Carboxymethyl) Cellulose	CM-cellulose	Tris(hydroxymethy) aminomethane	Tris
<i>O</i> -(diethylaminoethyl) Cellulose	DEAE-cellulose	Polymerase chain reaction	PCR
Ethylenediaminetetraacetate	EDTA		
<b>その他の略号</b> .....			
Gas chromatography-mass spectrometry	GC-MS	Michaelis constant	$K_m$
Gas liquid chromatography	GLC	Inhibition constant	$K_i$
High performance liquid chromatography	HPLC	Dissociation constant	$K_d$
Thin layer chromatography	TLC	Molecular weight	$M_r$
Polyacrylamide gel electrophoresis	PAGE	Boiling point	bp
Nuclear magnetic resonance	NMR	Melting point	mp
Infrared	IR	Isoelectric point	pI
Ultraviolet	UV	Rate of flow (Retardation factor)	$R_f$
		Retention time	$t_R$
		Revolution per minute	rpm
		Biological oxygen demand	BOD
		Chemical oxygen demand	COD
		Dissolved oxygen	DO